

# こうとう民報

2016年6月号 139

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行  
こうとう民報編集委員会  
責任者 猪又 武夫  
住所 江東区東陽2-3-5-203  
電話3648-5155 FAX3648-5137  
ホームページ  
http://www.koto-minpo.jp/



6月8日、江東区社会保障推進協議会は、東陽公園で「福祉の花を咲かせよう!第21回花咲デモ」を開催、200余名が参加しました。その後、車椅子の仲間を先頭に江東区役所までパレード。昼休みとあつて、沿道をゆくサラリーマンの注目を集めました。

区役所前では区長宛に、国や都に働きかけを求めた年金、医療、福祉、子育てなどの陳情のほか、区独自で「高すぎず払えない国保料を引き下げ、や、保育料の引き下げ、特養ホーム、認可保育園の増設、介護保険料・利用負担の軽減策、震度7を想定した住民のいのちを守る「防災のまちづくり」など多くの個人請願書を手渡しました。

集会で採択されたアピールには、政府は「医療・介護総合法」や「医療保険制度改革関連法」の強行のもとで、国民の生活が大きな負担を強いられ「保険料が高すぎて払えない」「医療費の負担が重く受診を控えている」「要支

援では介護保険の家事援助が受けられない」「要介護では特養に入れぬ」「など、医療、介護の切実な声が広がっていることを紹介。消費税8%以降、賃金は上がらず、暮らしが悪化しているにもかかわらず、政府は「財政難」を口実に、医療、介護、年金、生活保護などあらゆる社会保障を改悪し、国民負担増をさらに強めようとしていると厳しく批判。

さらには戦争法を廃止して、平和を守り、社会保障の改悪を許さず、安心して暮らせる日本を後世にまで残せるよう、江東の地域から声をあげようと訴えています。

本会議質問で公明党議員は、毎年多額の積み増しを繰り返す基金運用の実態を無視して、平成30年には基金が大幅に減少するなど主張しました。

代表質問に立った菅谷議員は、安本法制は自衛隊が地球規模で武器を使用し、外国人を殺傷する戦争法だと指摘、政府に廃止を求めよと迫りました。さらに自民党の改憲草案が基本的人権を否定し、恒久平和主義を投げ捨てるもの



## 第2回定例会

第2回定例会は6月8日から始まり、日本共産党区議団は菅谷俊一、赤羽目民雄、山本真の3議員が本会議質問を行いました。

菅谷議員は代表質問で、福祉削減と基金ため込みの区政運営を厳しく批判し、党区議団は、区民のくらしを支えるために、毎年予算修正案提出してきた。本年も修正額は予算の0.4%、7億8千万円余であり、財政運営上を将来的にも全く問題ない」と指摘しました。

野党統一候補が決まっしてから最初の「全国総がかり行動」が6月5日(日)午後、国会



## 政治を変える、市民が変える

正門や霞が関、日比谷公園で4万人が集まって開催されました。江東区からも「戦争法ぶつ潰せ江東行動」「希望のまち」「大島の会」「砂町の会」などはじめ各地域からのぼり旗や横断幕、プラカードを掲げて大勢が参加しました。

梅雨の晴れ間は真夏日、この季節に異例の水不足は深刻です。共産党都議団の告発を発端とする公私混同の舛添疑惑は、参院選の最中での世論の怒りに自民党も加わる不信任決議直前、辞職という結末を迎えました。これで、任期半ばでの辞任は3人連続!! 皮肉にもこの不祥事で都政が身近になった感があります。事実解明もしない辞任で、集中審議も百条委設置も自公らに否決されましたが、疑惑追及の幕引きは許されません。「違法性はないが不適切」との迷文句に納得できる人はいないでしょう。この追及で、政治資金規正法は政治家が国民の血税を私的に流用できる仕組みであることを明白にしました。それが影響すること

を恐れて都知事選は参院選後に予定されましたが、候補者選びには、疑惑まみれの知事を推してきた自公に都民の厳しい目が向けられるのは確かです。一方、参院選32の1人で統一候補をたてた4野党の対応が注目されます。過去2回の選挙で消費税増税の延期や破たんしたアベノミクスの「成果」で国民を欺き、憲法改悪に暴走する安倍政権の退場めざし、市民・国民とともにたたかう空前の選挙戦に、有利な条件が加わってきまし

好の機会となりました。

都政をめぐる腐敗に決別すし、都民の声を都政に生かす都知事を選出する選挙です。

告示日 7月14日(木)  
投票日 7月31日(日)

参議院選挙公示  
6月22日公示でスタートした参院選挙。期日前投票も始まりました。市民の声で政治を変える歴史的な選挙です。

投票日 7月10日(日)

東京都知事選挙

城東区の誕生と戦争景気

概説 江東の歴史 (57)



第二精工舎全景

1936(昭和11)年10月1日、東京市は、三多摩をのぞく5郡82町村を20の区に合併して市に編入し、35区となりました。その時、亀戸、大島、砂町をあわせて城東区が誕生しました。1939(昭和14)年の国勢調査では、亀戸77,159人、大島49,567人、北砂36,418人、南砂20,121人、合計183,265人となっています。深川区の人口は、1935年調査で214,175人。

満州事変から日中戦争に拡大していく1937年には、城東区では軽工業326工場(31%)、重工業732工場(69%)と、重工業の工場が増えていきます。

昭和になって江東地区に建設された主な工場は、南部に豊洲の石川島造船所第二、第三工場(軍艦・船舶)、亀戸の第二精工舎(時計)、大島に横山工業、日本エレベーター、東京プレス、増沢強板(機械)、砂町に汽車製造会社、東京芝浦製作所、那須電機、新興工業、東亜ペイント、中島鉄工、東京造船、東洋加熱など。自動車会社は、昭和6年に錦糸町から南砂2丁目に移転して、5万坪の土地に新工場が建設され、昭和16年には北砂5丁目の製糖工場亦に芝浦製作所の砂町工場ができて、タンクステンやモリブデンなどの精錬をおこないました。

また、以前にあった会社が他の会社と合併し、大工場になっていきました。東京ロール施削所は外島ロール、大谷鉄鋼と合併して大谷重工業となり、日立製作所は、越中島の戸畑製物工場を合併して日立金属深川工場をつくり、大島の東京スプリング製作所と東京鋼材は合併して三菱鋼材となり、東雲にも新工場をたてました。大島製鋼は米子製鋼所と合併して日曹製鋼となり、砂町の宮製鋼は東京シャーリングと合併して東都製鋼となりました。

こうして、京浜工業地帯の心臓部としての江東工業地帯が形成されていきました。

共同を広げ、職場を守る

江東区労連 第26回定期大会



名越秀和議長の開会挨拶

労働者を視野に入れ、20万人を超える未組織労働者の組織化と総対話をすすめて、区労連として地域労働運動発展させ、区内の共同を広げ、要求実現のために全力をあげる。7月参院選では野党統一候補の勝利と安倍暴走政治をストップへ奮闘しよう、などを決議しました。

経過報告と活動方針を提案した清水英明事務局長は、戦争法反対、労働者派遣法改悪反対などの運動に取り組み、安倍首相も「均等待遇」「保育士の待遇改善」を言わざるをえなくなつたと強調。組織拡大では、加盟労組やローカルユニオン、

5月29日、江東区労連は第26回定期大会を江東区文化センターで開催し、85名の代議員と来賓、傍聴者が参加しました。

江東民主商工会 第71回定期総会ひらく

江東民主商工会は6月12日、第71回定期総会を江戸川区タワーホール船堀で開催しました。



挨拶する上原議長

くらしを一気に冷えこませた。全商連付属・中小商工業研究所の今年3月の「営業動向調査」結果では、経営の重要指標である売上、利益とも2期連続で減少したと報告。

上原議長は、安倍政権の戦争できる国づくり、これを許さない国民の運動が広がり、政治の転換時期であると挨拶。森外米蔵事務局長は、消費税8%増税は国民の

この1年の活動では、確定申告にむけて自主記帳・自主計算学習会や支部中心の計算会など税金要求解決と、税制の民主



共産党 日本 あげ上 三和子 都議会 議員は

化の運動を他団体とも協力して取り組み、経営を守る運動・仲間同士の助け合いで仕事おこしなどにも力を入れたことなどの報告がありました。運動方針は、3年後の江東民商創立70周年を展望して会員400名、商工新聞読者は江東区内対象業者の10%を目標にして取り組み組織方針などを確認しました。

来賓挨拶で、舛添都知事の政治資金使途の疑惑に「毎日都民の声が寄せられ、共産党には徹底して追及してほしい」「自民、公明には、どうなっているのかと抗議の声が寄せられている」などと報告し、徹底究明すると述べました。

戦争にいかず 選挙に行こう!



6月11日、ママの会@江東の皆さんは、区内6か所で「戦争にいかず選挙に行こう」のリーフを配布。「だれの子どももころさせない」横断幕を掲げた宣伝活動を展開しました。

行事日程

- 7月19日(火) 第134回 9の日宣伝行動 (区内7駅ほか1カ所)
- 7月20日(水) 対区予算要求団体代表者会議 (江東区文化センター)
- 7月29日(金) 映画「シッコ」上映会 (総合区民センター) 14時〜、19時〜(2回)
- 7月29日(金) 非正規労働者決起集会 (江東区文化センター) 17時〜